

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年1月6日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202657
法人名	株式会社 ヴォルフアート
事業所名	グループホーム神根苑
所在地	333-0834 埼玉県川口市安行領根岸1260 (電話) 048-288-7736
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	6 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 9.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	13,650円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	360 円
	夕食	360 円	おやつ	0 円
または1日当たり 1,050円				

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春野クリニック、さいたま記念病院、けやき台歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの母体法人は、平成12年に埼玉県内でグループホーム事業を始め、神根苑は母体法人が運営する2ヶ所目のホームとして、平成17年に開設された。併設の施設として居宅介護支援事業所やデイサービスがあり、ホーム内の生活はとても和やかで落ち着いている。利用者一人ひとりに合ったケアを工夫し、「安心・1人ひとりの生活・ゆっくり」を理念として掲げ、日々支援にあたっている。職員の思いが伝わるグループホームであり、利用者が豊かな人間関係の中で生き生きと暮らせるような支援を行っているのが特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価では、運営理念の啓発等について指摘を受けていたが、職員会議で理念について話し合い、日々のサービスの中で実施しているなど、外部評価の改善事項について職員全員が把握し、改善のための話し合いを十分行い、ほぼ改善されてきている。また、評価を日々のケアに反映できるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者等は自己評価を積極的に活用していこうという姿勢を持っている。管理者等は職員に自己評価の意義やねらいについて分かりやすく伝え、サービスの質の向上がなされているか話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、利用者家族・自治会長・民生委員・事業者代表などの参加者によって開催されている。参加者メンバーをいろいろな行事に招待し、グループホームへの理解を深めてもらっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の健康状態の変化は電話連絡や家族来訪時に報告している。また、毎月「神根新聞」を発行して家族等に送付し、ホームでの暮らしぶりを知らせている。また、いろいろな問題が生じた場合は家族等を交え検討している。家族等が意見、苦情の言いやすい関係作りに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人とは気軽に挨拶を交わしている。また、地域住民にとって、当ホームが気軽に立ち寄れる場所となるよう努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・1人ひとりの生活・ゆっくり」をホームの基本理念として、地域でありのままの生活ができることを運営方針としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は利用者家族等の希望を入居時に把握すると共に、暮らしの中で利用者の思いを理解することに努め、理念の具体的な実践に努めている。さらに全体会議等で、職員間で理念を共有するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近所の方とは気軽に挨拶を交わしている。月1回の資源ごみの提供、他地域の保育園への訪問があるなど相互に交流を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は外部評価の実施に向け、職員に評価の意義やねらいについて分かりやすく伝え、職員と一緒に取り組んできた。また、必要な改善を行い、今後も外部評価の結果を共有し、改善に向けて取り組みをしていく方針である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホーム設立より、運営推進会議は開催されている。会議参加者はホームの職員・家族・自治会長・民生委員・事業者代表等であり、ホームの取り組み内容や課題等を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは運営推進会議の連絡報告を行っている。また、ボランティア受け入れについて相談するなど、市とは相互に協力する体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の体調不良や事故等は電話で報告する他、家族面会時を利用して本人の様子を報告している。面会の少ない家族には月1回請求書や苑だより等を送付する際にホームでの生活の様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時、内容により直接話し合う機会を設けている。家族の意見は、会議等で話し合い、運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ顔なじみの職員が継続して支援していけるよう、ユニット間の職員交替は最小限となるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のミーティングの他、月1回の会議で管理者・職員各々に必要な研修を実施している。計画的な事業所外での研修はなされていない。		職員の資質や知識の向上がサービスの質の向上につながるため、外部研修への参加の機会を確保され、研修後は参加者からのレポート等の報告により、職員間で研修内容を共有する仕組みづくりの検討を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員共に外部の研修等に参加するなどして、同業者と交流する機会を持ち、日々の活動の悩みなどを話し合い、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の気持ちを大事にしてホームの見学や本人が納得した上でのサービスを行うよう配慮している。また、本人の気持ちを汲み取る工夫をすると共に家族とも相談しながら無理なく馴染んでいけるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と一緒に掃除や洗濯をしたり、時には折り紙をするなど同じ時間と空間を共有するように努めている。また、戦争時の苦勞話し等を聴いたりして、職員は介助する一方ではなく、本人から学ぶ機会を設けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションの中で、意識的に声かけをし、利用者の希望や思いを把握している。本人からの把握が困難な場合には、個々に家族等から本人の情報を収集し、支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の家族等の思いや意向を把握した上で利用者本位の具体的な介護計画を立てている。カンファレンスの中で出た内容等を家族と話し合い、ケアプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々のカンファレンスや月1回の会議で計画の変更が必要か話し合っている。ホーム長が全ての介護計画を確認して、気が付いたところは会議等で検討するなど、積極的にスーパーバイズをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が外出を希望した場合はドライブ等に出かけている。また、適宜の通院や外泊など、利用者や家族の希望に臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の理解を得て、協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、月2回の訪問診療を行っている。その他病状に応じて他の協力病院を受診できるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に聞き取りを行い、本人・家族の意向を把握している。状況に応じてかかりつけ医と家族の話し合いの中から方針を決め、職員全員で支援をしていく。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーポリシーの確保が必要なことを勉強会で話し合い、利用者の尊厳を損ねない対応に配慮している。また、日常的に利用する記録または書類等は鍵のかかる書庫で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や希望で朝食の時間をずらしたり、日中には個別の趣味を行うなど、一人ひとりの生活リズムや希望を尊重した支援を行っている。また、利用者が買い物希望した際には職員が同行し出かけるなどの対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は各テーブルで他の利用者や職員と歓談しながら楽しそうに食べている。また、利用者の状況により食事形態を変えている。利用者の中には職員と一緒に片付けをしている人もいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後を入浴の時間帯とし、事前に個々の希望を聞き、一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう支援している。その他、汚れた場合など適宜入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族等から生活歴や趣味等の情報を入手するように努めている。お茶入れ、掃除、洗濯などは一緒に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出できるように支援している。近所のスーパーへの買い物、散歩等、また、日帰りでの外出等も行っている。多い人は1日2回から3回外出する人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止のため、玄関はやむを得ず施錠しているが、屋内は構造的に広く、各階の行き来は自由にできるようになっている。なお、利用者が表に出たいという希望があれば、安全面に配慮し、職員と一緒に外に出るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練や消火器の使い方の訓練はまだ行われていない。また、食糧等の備蓄もない。避難経路については、管理者・職員等の会議や運営推進会議で話し合っている。		自治会に加入していることから、自治会の防災訓練に参加するなど、災害時の協力を得られるような検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者と職員が協力して作っている。食材は栄養バランスを考え業者から仕入れをしている。また、チェック表を活用して利用者の食事摂取量や水分量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けは利用者と職員で一緒に考え作り上げている。また、食堂にはテレビ等が置かれ、個々に自由な時間を過ごす事ができるようにしており、共有スペースは利用者が居心地よく過ごせるよう、工夫や配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン・ベッド・タンス・カーペット・畳など利用者の使い慣れた物をホームに持ち込むことができ、安心して過ごせるよう配慮している。本人の好きなものを飾ったり、仏壇を持ち込んでいたり、居室には利用者の個性が感じられる。		